

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1670200730		
法人名	(株)永田メディカル		
事業所名	ローカルセンター高岡		
所在地	高岡市野村1474-1-2		
自己評価作成日	平成30年1月20日	評価結果市町村受理日	平成30年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/16/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kihon=true&JizyosvoCd=1670200730-00&PrefCd=16&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人富山県社会福祉協議会		
所在地	富山県富山市安住町5番21号		
訪問調査日	平成30年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の方一人ひとりの思いやペース、好みを大切に、笑顔になれる事、生き生きと出来る事を探りながらアクティビティを共に行っている。ケアプラン見直し時のカンファレンスやモニタリングの際には本人、家族に声をかけ、可能な限り参加して頂いており直接意見、要望を聞き日頃のサービス提供につなげている。施設行事には、御家族だけでなく本人と関わりがある方や地域の方々にもお知らせをし、参加して頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・法人の3事業所で1カ月に2回、第2・4火曜に「スタッフ交換」を行っている。現場で見聞きした良いところをお互いにシェアすることで、より良いケアに活かせるよう取り組んでいる。
- ・介護計画策定時には、ほぼ全員の家族参加が定着している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通じて、地域住民や地区の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームの目に付くところに理念を掲示し、いつでも見られる。リーダー業務の一環として、毎日、日報に書き出し実践できるようにしている。	理念は共有ホール・事務所・玄関に掲示されている。毎日当日のリーダー職員が日報を記入するが、日報には理念を書き出す様式となっており、理念の再確認に役立っている。職員で理念について話し合う機会は少ないが、法人の事業所ごとに理念をふまえた目標作成に取り組んでいる。	理念について共通の認識をもつよう、職員全体で理念について話し合う機会を設けるなど期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(納涼祭、公民館祭、防災訓練)に参加しご近所の方々と会話したり交流している。30年度は地域の保育園児との交流を考えている。	地域行事(獅子舞・除雪協力・公民館祭り・防災訓練)に参加したり、地域の方を事業所の納涼祭に招待するなど交流を図っている。	28年度の目標達成計画である地域の保育園や小学校との交流に向けての取り組みが達成されておらず、今後の取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方にも運営推進会議に参加してもらったり、行事に参加して頂いたりして話し合いの場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族間の交流の為にもと、2家族に参加頂いている。会議内容を職員全員が周知できるように、報告書を連絡帳に開示している。	運営推進会議は2カ月に1回、第1土曜日10時から1時間程度行っている。議事録は家族の欠席者には郵送し、委員には次回に手渡ししている。職員は連絡帳にて議事録の内容を確認、情報を共有しケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村からの情報提供もあり、こちらからも相談に出向いている。	課題があった場合は、市の担当課へ出向いたり、電話で相談している。その際の相談内容は、対象利用者の記録に記入している。今年度、相談した事例はなかった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、自由に玄関先や1、2階へ行くことができ、外へ出られた場合は見守り付き添いをしている。	玄関の施錠は18時～8時まで、エレベーターの移動は自由に行っている。利用者へは「大きい声で呼びかけない」「後ろから声をかけない」「プラスの言葉をつかう」などスピーチロックにつながらないように配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加したり、月一回のミーティングで話し合ったりして、虐待のないケアを心がける雰囲気が職員全体に感じられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加、必要であれば市役所に出向いて相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類だけでなく、電話や来所時等にも個々に対応し話し合うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、面会時などいつでも要望、意見が言いやすい環境づくりに努めたりし、問題があれば職員間で検討し、共有、反映している。	家族からの意見箱への投稿はない。利用者家族には家族会への入会を必須としている。問題があった場合、話し合いを行い、解決している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のスタッフミーティング時に個々の意見を発言し、ミーティング内容を本社に提出している。	月に一度のスタッフミーティングでは職員全員に「ひとりひと言提案」を促しており、抽出した課題は議事録にまとめ本社会議にて検討している。ミーティングには本社担当者も参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有給を消化し、仕事と生活のバランスを保てるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	連絡帳に研修のお知らせを入れておき、職員が希望する研修に行くことができる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	富山GH協会に加入したことで、同業者との交流ができています。昨年よりケア事業部間での交流研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や以前の施設より情報を集め、暫定ケアプランをたてている。本人との会話の中から汲みとったり、日常生活や本人の状態、表情の変化を見逃さず、安心して生活していくことができるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にはゆっくりと話をして関わりを持ち、不安や要望等を聞き出すようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の、その時の状況、状態に応じ何が必要かを見極め、暫定ケアプラン、初回のケアプラン作成に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	好まれる役割をみつけ、共に行ったり、教えて頂いたりして感謝の気持ちを伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人との絆が切れないようにしつつ、それぞれの家族が負担にならないかその時の家族、本人の状態を職員間で考えながら、面会や外出の依頼をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力のもと馴染みの場所へ出かけたり、友人や知人の面会時には、いつでも気軽に来て頂けるような環境作り心掛けたりしている。	外出を拒む利用者も増えている。家族が来所する際に、職員の同席を求める家族には、過ごしやすいように対応している。なじみの美容院の利用や訪問理容・マッサージがあり、利用者の希望に沿っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう配慮したり、入居者同士トラブルにならないよう目を配ったり、関係性をしっかり把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も継続という気持ちで、必要であれば相談に応じ支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとり、その日の気分によって飲みたいものが言えたり、嫌いなものは別の物に変更したりして、工夫し本人本位に検討している。	職員は利用者をほぼ1人担当していることからきめ細かい記録が作成されている。利用者の気持ちに寄り添う対応の一環として、廊下の隠れたスペースに椅子が配置され、周囲に気兼ねせず会話でき、利用者の思いを知る機会を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に話を聞いたり、家族やケアマネより以前の情報を頂いたり、本人を知る事に力を入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自のペースに合わせて個性を大切に、やりたい意欲を引き出す支援を心がけている。また、心身の状態については、申し送りやケース記録で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスやモニタリング時には、可能な限り本人、家族に参加してもらい、意見が出やすいような雰囲気づくりに努めてケアプランを作成している。	モニタリング、カンファレンスで取り上げられた内容を反映し、担当職員・計画作成担当者・作成当初から参加されている全家族で介護計画を作成している。利用者や家族が、希望や意見が言いやすい事業所であることが伺える。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人のイキイキされていた事や、職員が工夫したことを記録、支援経過に残している。モニタリングで見直したことは連絡帳に記入し、職員間で周知出来る様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族と相談し、訪問リハビリを利用されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の行事に参加している。また、玄関先で日光浴をしながら近所の方と会話をしたり、毎年祭りの休憩をしてもらい交流を図ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞き、入所後かかりつけ医に通って頂き、連携を図っている。	家族の同行のもと入居前からのかかりつけ医に受診されている。事情により職員が同行することもある。受診の際、日常生活や変化等の気づきについて文書で情報提供をしている。連携医療機関から月4回看護師の訪問を得ており、相談やアドバイスを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは直ぐに相談できる環境にある。看護、介護の両方の視点から意見を出し合い、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、家族を通して入居者の情報を聞いている。また、スタッフも入院先へ行き直接状態を見て、医療関係者からも状態と情報を聞いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の方に入居者の状態に応じて、今後どうしていくか話し合いの場を作っている。また、包括に相談したり、ミーティング時に職員全員で話し合いをしたり、入居者と家族にとってよい支援を考えている。	入居時の説明で看取りが可能である旨を伝えている。看取りに関する事例はなく、研修もこれまで実施されていない。職員の看取りに関する意識は高い。	職員の少ない時間帯の急変や、看取りに対応できる心構えについて、定期的に訪問される看護師による具体的な話や、計画的な研修会の実施が望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練はできていないが、急変時や事故発生等のマニュアルがあり、異常があれば看護師や医師に連絡できる。また、ミーティング時に職員で話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施している。また運営推進会議では自治会の方にも協力を呼び掛けている。地域の防災訓練にも参加している。	住宅地にあり避難場所は事業所の駐車場である。消防署による避難訓練に、近隣住民2人の参加協力を得たが、職員は当日出勤者のみである。町内会に協力依頼はしていない。備蓄品リストは見当たらず、備蓄として水が用意されていた。	地域柄浸水被害の実例もあり、町内会等との協力体制の構築に取り組まれることを期待する。また、必要な防災用品を揃え、備蓄品リストを整備されることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩を敬う気持ちを忘れず、言葉遣いに注意している。また、気付いたときはミーティングの時に話し合っている。	利用者と職員の和気あいあいとした雰囲気 が日常にみられるが、人生の先輩としての尊 厳を損なうことのないように心掛け、声掛け 等の言葉づかいに気づいた職員は互いに注 意しあっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	やりたい事や行きたい所など、本人の思い にそって自己決定できる雰囲気作りに努め ている。自分の思いをメモにして提出され る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大事に、ゆったり自由 に思いのままに過ごして頂けるよう支援して いる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	馴染みの床屋さんに出掛けたり、訪問カット では希望や好みを伝えている。また化粧品 を持っている方には声掛けをし、お化粧品を 頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	旬の物を取り入れたり、苦手なおかずがあ れば違う物にしてみたり、その方に合わせ て刻んだりしている。共に調理の準備をし たり、会話しながら食事を楽しんでいる。	毎日の食材調達から調理まで職員で対応してい る。職員と利用者が食卓を囲み、明るく和やか である。献立は多彩で味付けも良く、好みに 応じた対応をがなされ、食事が最大の楽しみ ごとで全員完食されていた。手伝う利用者 は少ないが、訪問当日はもやしのひげ取り を男性も交えて楽しんでされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食記入し、少ない場合は その方に合わせた物を提供している。水分 も不足しないようにこまめに提供してい る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	その方のできる範囲で洗口液を使ったり、ブ ラッシングして頂いたりしている。訪問歯 科の利用で個々に応じた口腔ケアができて いる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握するように努めている。個々に合わせた紙パンツ及びパットや失禁パンツを使用し、トイレの声掛けをしている。	利用者18人のうち自立排泄が可能な利用者は5人おり、他の利用者は紙パットで対応できている。排泄チェック表及び表情や仕草から、さり気ない誘導に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩など自然にできる運動を行っている。また、ヤクルトや牛乳、オリゴ糖など提供している。それでも便秘の方には、その方の状態に合わせて坐薬やシンラック液など用いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているも、拒否がみられた時は時間を置き、タイミングをみながら入浴を勧めている。それぞれの温度や時間、本人の気持ちを尊重し、利用者さんのペースでゆっくり入浴できるように配慮している。	浴室は明るく清潔で、車いす利用者の出入りも可能な広さである。現在 一般浴槽のみであることから、利用者の介護度が進むこと、また、職員の負担の軽減を図ることからリフト浴の導入を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの休む時間は違うので、その方に合わせて対応。日中は、外出や日光浴、体操をしたりして、夜は良く眠れるように働きかけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬変更時は連絡ノートに記入し、いつでも確認できる。また、変更後しばらくは、血圧測定や排便確認を行っている。服薬確認、副作用も見落とさないよう心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの方の得意分野を發揮できるように、好みを把握し個々に合わせて様々なアクティビティを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の気分や天候にもよるが、自由に出かけられる。また、家族にも了解、協力を頂き本人の行きたい所や思い出の場所へ出掛けられるよう努力している。	職員が日常的な食材の買い物に出かける際に利用者に声掛けし、少数ではあるが希望する人と出かけている。2か月に1回理髪店からの来訪もあり、美容院への送迎は職員がしている。家族の協力を得て外食されたり、事業所からドライブを計画するが、積極的な参加希望は少ない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月一回の宅配パン屋さん来所時には、財布を持って1階まで買い物に行かれる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話は希望があればいつでも手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレはわかり易い様に表示してある。光の調整、室温、湿度等、時間帯や季節によって調整している。また、季節感を感じとれるよう季節の行事を行い、季節の花を飾っている。また整理整頓に努めている。	事業所全体が整理整頓され清潔である。1日の大半を過ごす共有空間は2階部分があるにも関わらず、天井は高く外光が十分採り込まれ開放感がある。利用者同士の弾んだ会話の様子から、日々の暮らしの安心感が感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の部屋では一人の時間を自由に過ごせ、ホールでは、ソファを多く設置し会話を楽しむことができる。また、1、2階の行き来が自由にでき、気の合った入居者の方向士過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品を持参して頂き、個人に合わせた配置にしている。家族の写真、贈り物の花や品物を飾って本人なりの落ち着ける部屋となるよう、自由にして頂いている。	居室は畳敷きで落ち着きを感じられ、明るく清潔である。車いす利用者の居室には移動部分にカーペットが敷かれている。収納が大きい分、居室内は整然としており、洗面台が設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じて案内表示を大きくしたり、色を変えたり、のれんや、造花で目印をつけたりしている。その方の状態に合わせて危険なものをガードしたり、導線に物を置かないよう整理整頓に努めている。		

目標達成計画

作成日: 平成 30年 4月 7日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時の備蓄について不十分である。	災害時備蓄品リストの整備とスタッフ間の周知徹底。	すぐに役立つ備品、食糧をリストアップし補充する。	1ヶ月
2	2	地域の保育園や学校へ出向く機会が持てず、以前から考えていた交流が図れていない。	当ホームが地域の一員として役立てるような交流を図る。	地域の保育園や学校へ出向く時間をつくり、互いに活躍出来る事は無いか話し合いをする。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。